

病院建て替えに伴う時間外生化学検査体制の見直し

◎伊東 寿眞¹⁾、勝山 祐人¹⁾、藤波 清香¹⁾、矢野 めぐみ¹⁾、松崎 友絵¹⁾、嶋田 裕史¹⁾
福岡大学病院 臨床検査・輸血部¹⁾

【はじめに】

当院では、時間外生化学検査を、24 時間稼働している緊急検査室にて TBA-c 16000（キャノンメディカルシステムズ株式会社）2 台、平日日勤帯生化学検査を、臨床化学検査室にて LABOSPECT008α（日立ハイテック株式会社、以下 LST）2 台で実施していた。病院建て替えに伴う検体検査室のワンルーム化を契機に、時間外生化学検査体制の見直しを行ったので報告する。

【運用変更】

検体検査室のワンルーム化により、時間外生化学検査を LST1 台運用（以下緊急 LST）に変更し、バックアップ機として平日日勤帯で使用している同一機種 of LST を用い、運用することとした。緊急 LST は、平日日勤帯でメンテナンスや試薬補充を実施し、平日は夕方から翌朝まで稼働させる。休日は 24 時間稼働させ、最小限のメンテナンスを実施している。また、平日日勤帯の検体が集中する午前中を過ぎた後、LST1 台の稼働を停止させ、メンテナンスや試薬補充を実施し、バックアップ機とし

て再度立ち上げ、常時測定可能状態で待機させている。

【運用効果】

- ①メンテナンスや機器立ち上げ等に費やしていた時間が約半分になり、他業務との兼務が実現した。
- ②時間外、平日日勤帯の分析機器が統一されたことで、機器ごとのトレーニング、SOP 作成等の業務量が軽減した。また、試薬も同一のものになり、試薬管理作業も集約化された。
- ③試薬、キャリブレーションのコストを比較すると、緊急 LST では 3 割程度削減された。
- ④緊急 LST トラブル時のバックアップ機稼働回数は年間 7 回であった。

【考察】

ワンルーム化に伴い、時間外生化学検査の体制や運用方法を見直したことで、人員省力化、コスト削減に繋がった。今後も定期的な運用の見直しを実施し、更なる業務効率化を目指していきたい。

連絡先：092-801-1011 （内線 2263）